

平成22年度

杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン実績評価書

平成23年9月

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会

◎ はじめに

病院改革プラン（以下、「改革プラン」という。）は、平成19年12月に総務省において策定された「公立病院改革ガイドライン」に沿って平成21年3月に策定され、その取り組み状況についての点検・評価を行う為、評価委員会が設置された。

「杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会」は、外部有識者、住民代表者等を含む5名の委員で構成され、平成22年度決算の状況を含め、改革プランの実施状況の点検・評価を実施した。

1. 評価区分の基準

「計画、実績」「改革プランにおける数値目標等（実績、目標）」「公立病院として今後果たすべき役割」について評価を行った。

評価は次の表のように4段階とし、それぞれの評価の基準は説明のとおりである。

評価	評価の基準
◎	計画、数値目標を大きく上回った
○	計画、数値目標をほぼ達成した
△	計画、数値目標をやや下回った
×	計画、数値目標を大きく下回った

2. 総合評価

昨年度は、改革プランに対する初めての評価であった。今年度は昨年度の評価結果に対する経過を踏まえた努力の成果が得られているように思われる。

来院した際の印象であるが、職員も以前とは少し変わったように感じられる。病院正面玄関の総合案内での外来者および患者に対する対応も良好のように思われる。

I. 「公立病院として今後果たすべき役割」

① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供

外来患者数は減少しているが、外来収益は増加している。また、入院収益も平成22年度（7月～）よりDPCを採用することによって増収となっており、良好な傾向として評価できる。

さらに、救急科専門医を1名増員により2名体制とし、救急車搬送患者は前年に比べ増加しており評価できる。

当院では時間外に受診患者が多くなると、本来の救急患者対応が出来ないことになる。そのような受診を抑制するためにも患者に対する教育も必要である。

② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供

計画のように健診者数は増加し、要医療指摘者数も増加しているものの、健診部を総合的にまとめることのできる医師が不在のために対応できていない部分がある。

健診者数についての対応は外部からの専門医に来てもらう、あるいは土曜日等に健診部門を稼働させる等の対応を考えられないであろうか。

③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供

DMATの活動、および各種の訓練・研修会への参加等の積極的な姿勢が評価できる。

原発事故に対する災害対策においては、発電所内の事故で負傷した軽度の患者が搬送されて来た場合には初期治療を行い、放射能汚染がある場合は事業所内において除染処理をして搬送、さらに内部被曝が認められる2次医療については福井県立病院、福井大学付属病院に搬送、原発施設自体に事故が発生した場合は、福井県防災計画に基づき県の指示により対応するとのことであるが、福島県における原発事故を踏まえたうえでの関係施設との再確認が必要と思われる。

④ へき地医療拠点病院としての機能の提供

無医地区への巡回診療、名田庄診療所への医師派遣などは、評価すべき取り組みである。

⑤ 小児医療・産科医療の確保

都市部においても小児科および産科の医師の不足する状況にもかかわらず、地方において小児科医3名、産科医2名を維持しながら地域医療に貢献していることは高く評価できる。

⑥ 研修機能の充実

TV会議システムの導入により、地域性の問題を解消し医療知識の向上を図ることができるような体制が整備され、利用されていることは評価できる。

臨床研修医が22年度もフルマッチであり、修了者全員が後期研修に残ったことも高く評価できる。

⑦ 看護師の養成・確保

7:1看護体制の維持および看護師国家試験合格率が6年間連続100パーセントを維持していることについては、高く評価できる。

なお、専門看護師、認定看護師の確保および養成についても今後取り組むことが望まれる。

⑧ 地域医療機関との連携の推進

医師会と協力して開放型病床を開設することが望まれる。その稼働についてはなかなか難しいところであるが、成功している病院の視察をするなどの努力が期待される。

福井県地域連携パス（脳卒中）に参加し紹介率・逆紹介率の実績を上げてきたことは評価できるところである。「胃がん」に「糖尿病」を併発している場合に前者については当院で治療するが、後者のコントロールはかかりつけの診療所に逆紹介するなど、さらに紹介率を上げるためにも逆紹介に努力することが望まれる。地域の基幹病院として、機会があれば他種類の地域連携パスにも参加することが期待される。

高度医療施設整備事業で設置された PET の利用については、いわゆるメディカルツーリズム、脳ドック等の健診業務で利用率を向上するのみならず、舞鶴市内の病院と協同利用する体制を整えることが期待される。

一時期、舞鶴方面へ受診に行く患者が多くなったようであるが、当院がさらに診療機能を充実すれば患者はもっと戻ってくるはずである。

総合的診療機能を有する当病院ではあらゆる診療科の医師がいなくてはならないが、糖尿病、循環器といった特化した診療機能を充実させる必要があるのではないかと。

II. 「経費削減・抑制対策」

① 給与費の抑制

医師、看護師を増員し入院患者の確保を図り、給与費が対医業収益比で△4.3 パーセントとなった点は評価できる。

平成22年度は新規に機械化したものはなく、現在使用しているものを有効的に使うことにより省力化に取り組んでいる。また、現在、清掃、警備、給食など委託の可能な業務について実施していく方針は評価できる。今後、電話交換手を含め、退職等による人員計画において外部委託等を検討していくことが期待される。

「地方公営企業年鑑」「給与実態調査」「ラスパイレス指数」で比較しても他市町、他病院とでは当院は高くない。手当などについても当院は低い支給となっており、出張手当について実費旅費は支給しているが、日当については自

れる。

- ④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。

主に診療情報管理士が研修会に参加する一方、各種の加算・管理料を取得するようにしたことは評価できる。

- ⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価（DPC）準備病院に平成 20 年度申請した。

平成 20 年度より、診療情報管理士が中心となって準備病院として行ってきた DPC 請求は収入増加・確保対策において高く評価される。

- ⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。

地域医療支援病院の施設認定基準の一つである、紹介率・逆紹介率は非常に高く設定されており、現在の地域支援病院の制度・基準では紹介率の数値のために認定は不可能だと思われる。

小浜市の市街地は別として、車による受診であれば、近接性においては診療所も当院も同一の条件となってしまう、中核病院へ直接来院することとなり、紹介状なしで受診を求めてしまうことが考えられる。

また、紹介状を持って来院しても、当院が中核病院であるが故に、紹介された診療科以外の科で受診していると、初診料が算定できず紹介患者として算定できない場合があるため、紹介率の算定について難しいのが現状である。

地域医療支援病院の承認基準である紹介率については、それぞれの地域の医療環境も考慮し、地域の状況に見合った基準の見直しを要望していく必要がある。紹介率・逆紹介率の率（基準）を特例として例外的に下げてもらうような、政治的な働きかけが必要ではないか。

改革プランにおける数値目標等(実績・目標)

(単位:百万円)

収支	平成21年度 決算	平成22年度 プラン A	平成22年度決算 B	平成22年度決算 -プラン(B-A)	平成23年度 プラン
病院事業収益	6,826	6,382	6,641	259	6,668
うち外来収益	1,614	1,588	1,654	66	1,588
うち入院収益	3,423	3,878	3,966	88	4,137
うち医業外収益	1,425	601	617	16	618
病院事業費用	7,049	7,211	7,162	▲ 49	7,436
うち給与費	3,151	3,259	3,252	▲ 7	3,292
うち材料費	1,267	1,381	1,290	▲ 91	1,430
うち経費	693	718	741	23	744
うち減価償却費	820	755	773	18	781
純損益	▲ 223	▲ 829	▲ 521	308	▲ 768
累積欠損金	2,385	3,297	2,906	▲ 391	4,070
資金収支	597	▲ 74	252	326	13
不良債務	-	-	-		-

財務に係る数値目標	平成21年度 決算	平成22年度 プラン A	平成22年度決算 B	平成22年度決算 -プラン(B-A)	平成23年度 プラン	自己評価	委員会評価
経常収支比率	96.8	88.5	92.7	4.2	89.7	○	○
(減価償却費を除く)	109.6	98.9	103.9	5.1	100.2	○	○
医業収支比率	84.3	86.3	90.3	4.0	89.1	○	○
職員給与費比率	58.3	56.4	54.0	▲ 2.4	54.4	○	○
病床利用率(一般)	69.2	74.1	76.4	2.3	80.0	○	○
病床利用率(療養)	76.4	80.0	82.1	2.1	90.0	○	○
病床利用率(全体)	71.8	76.7	77.6	0.9	81.6	○	○
外来患者数(1日平均)	792	810	776	▲ 34	810	△	△

平成22年度 杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン評価シート

公立病院として今後果たすべき役割

嶺南医療圏・若狭地域の基幹病院として、政策的医療等の提供や病診連携の中心的役割を果たし、地域医療水準の維持、向上に努める。																																	
役割と計画	実 績			進捗の判断	自己評価	委員会評価																											
① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 20%;">平成20年度</th> <th style="width: 20%;">平成21年度</th> <th style="width: 20%;">平成22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外 来 延 患 者 数</td> <td style="text-align: right;">193,733人</td> <td style="text-align: right;">191,767人</td> <td style="text-align: right;">188,452人</td> </tr> <tr> <td>外 来 収 益</td> <td style="text-align: right;">1,575,238千円</td> <td style="text-align: right;">1,614,242千円</td> <td style="text-align: right;">1,654,157千円</td> </tr> <tr> <td>入 院 延 患 者 数</td> <td style="text-align: right;">116,525人</td> <td style="text-align: right;">117,967人</td> <td style="text-align: right;">127,523人</td> </tr> <tr> <td>入 院 収 益</td> <td style="text-align: right;">3,328,947千円</td> <td style="text-align: right;">3,422,810千円</td> <td style="text-align: right;">3,965,997千円</td> </tr> <tr> <td>救 急 取 扱 患 者 数</td> <td style="text-align: right;">10,379人</td> <td style="text-align: right;">12,540人</td> <td style="text-align: right;">12,500人</td> </tr> <tr> <td>救 急 車 搬 送 件 数</td> <td style="text-align: right;">1,760件</td> <td style="text-align: right;">1,689件</td> <td style="text-align: right;">1,908件</td> </tr> </tbody> </table>		平成20年度	平成21年度	平成22年度	外 来 延 患 者 数	193,733人	191,767人	188,452人	外 来 収 益	1,575,238千円	1,614,242千円	1,654,157千円	入 院 延 患 者 数	116,525人	117,967人	127,523人	入 院 収 益	3,328,947千円	3,422,810千円	3,965,997千円	救 急 取 扱 患 者 数	10,379人	12,540人	12,500人	救 急 車 搬 送 件 数	1,760件	1,689件	1,908件	<p>①外来患者数は「かかりつけ医制度」導入後年々減少傾向にあるが、外来収益は増加している。入院患者数は、年々増加しており、入院収益も大幅にアップした。</p> <p>②平成21年度は、救急科専門医師が1名であったが、平成22年度は2名に増員したことにより救急医療体制がより充実した。</p> <p>③救急取扱患者数は、前年と横ばい状況となっている。</p> <p>④救急車搬送患者は毎年増加している中、当院では前年度に比べ219件増加した。</p>		○	○
		平成20年度	平成21年度	平成22年度																													
	外 来 延 患 者 数	193,733人	191,767人	188,452人																													
	外 来 収 益	1,575,238千円	1,614,242千円	1,654,157千円																													
	入 院 延 患 者 数	116,525人	117,967人	127,523人																													
	入 院 収 益	3,328,947千円	3,422,810千円	3,965,997千円																													
	救 急 取 扱 患 者 数	10,379人	12,540人	12,500人																													
救 急 車 搬 送 件 数	1,760件	1,689件	1,908件																														
② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 20%;">平成20年度</th> <th style="width: 20%;">平成21年度</th> <th style="width: 20%;">平成22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健 診 者 数</td> <td style="text-align: right;">881人</td> <td style="text-align: right;">908人</td> <td style="text-align: right;">955人</td> </tr> <tr> <td>うち要医療指摘者数</td> <td style="text-align: right;">452人</td> <td style="text-align: right;">571人</td> <td style="text-align: right;">604人</td> </tr> <tr> <td>健 診 収 益</td> <td style="text-align: right;">43,943,973円</td> <td style="text-align: right;">47,988,008円</td> <td style="text-align: right;">49,098,661円</td> </tr> </tbody> </table>		平成20年度	平成21年度	平成22年度	健 診 者 数	881人	908人	955人	うち要医療指摘者数	452人	571人	604人	健 診 収 益	43,943,973円	47,988,008円	49,098,661円	<p>①健診者数は年々増加している。又、要医療指摘者数も年々増加している。</p> <p>②専従の医師確保に苦慮している。</p>		△	△												
		平成20年度	平成21年度	平成22年度																													
	健 診 者 数	881人	908人	955人																													
	うち要医療指摘者数	452人	571人	604人																													
健 診 収 益	43,943,973円	47,988,008円	49,098,661円																														

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																														
③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供	<p>7月 若狭消防組合の救急救命士と合同勉強会実施。</p> <p>8月 新規DMAT養成研修の受講（神戸市 5名参加）</p> <p>8月 福井県総合防災訓練参加（大野市 6名参加）</p> <p>9月 救急部と医事課の勉強会</p> <p>10月 DMAT隊員の技能維持研修参加（愛知県 6名参加）</p> <p>福井県原子力防災訓練に参加。</p> <p>病院でも初期被曝を想定し模擬患者の受入れ訓練も実施</p> <p>3月11日 東日本大震災にてDMATメンバー待機</p> <p>3月22日～25日 東日本大震災にて救護班派遣（宮城県 6名派遣）</p>	<p>DMATは3チーム相当の隊員を確保できた。この事もあり、東日本大震災での救護班の派遣をスムーズに実施することができ、被災地への救援活動に大きく貢献した。</p> <p>各種の訓練や研修会への参加により、災害医療に対するスキルもアップしており、インストラクターやオブザーバーとして招かれる職員も多く、病院全体のレベルもアップしてきている。</p>	○	○																																														
④ へき地医療拠点病院としての機能の提供	<table border="1" data-bbox="479 746 1205 863"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巡回診療日数</td> <td>168日</td> <td>168日</td> <td>168日</td> </tr> <tr> <td>延患者数</td> <td>1,638人</td> <td>1,359人</td> <td>1,265人</td> </tr> </tbody> </table>		平成20年度	平成21年度	平成22年度	巡回診療日数	168日	168日	168日	延患者数	1,638人	1,359人	1,265人	<p>へき地医療拠点病院として、無医地区への巡回診療を担当しているが、地域の過疎化により受診者は減少している。しかし、交通手段の乏しい地区への定期的な診療は、地域医療に大きく貢献している。</p> <p>また、名田庄診療所の要請により医師を派遣した。</p>	○	○																																		
	平成20年度	平成21年度	平成22年度																																															
巡回診療日数	168日	168日	168日																																															
延患者数	1,638人	1,359人	1,265人																																															
⑤ 小児医療・産科医療の確保	<table border="1" data-bbox="479 954 1205 1374"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">小児医療</td> <td>外来延患者数</td> <td>13,694人</td> <td>16,581人</td> <td>16,128人</td> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>1,380人</td> <td>1,408人</td> <td>1,237人</td> </tr> <tr> <td>外来・入院収益</td> <td>114,540千円</td> <td>134,825千円</td> <td>130,557千円</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">産科医療</td> <td>外来延患者数</td> <td>7,763人</td> <td>7,299人</td> <td>8,053人</td> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>3,183人</td> <td>2,869人</td> <td>3,280人</td> </tr> <tr> <td>外来・入院収益</td> <td>137,659千円</td> <td>126,089千円</td> <td>152,302千円</td> </tr> <tr> <td>正常分娩</td> <td>173件</td> <td>162件</td> <td>121件</td> </tr> <tr> <td>異常分娩</td> <td>9件</td> <td>14件</td> <td>56件</td> </tr> <tr> <td>帝王切開</td> <td>31件</td> <td>44件</td> <td>46件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>213件</td> <td>220件</td> <td>223件</td> </tr> </tbody> </table>		平成20年度	平成21年度	平成22年度	小児医療	外来延患者数	13,694人	16,581人	16,128人	入院延患者数	1,380人	1,408人	1,237人	外来・入院収益	114,540千円	134,825千円	130,557千円	産科医療	外来延患者数	7,763人	7,299人	8,053人	入院延患者数	3,183人	2,869人	3,280人	外来・入院収益	137,659千円	126,089千円	152,302千円	正常分娩	173件	162件	121件	異常分娩	9件	14件	56件	帝王切開	31件	44件	46件	計	213件	220件	223件	<p>地方の医療機関で医師不足が深刻化する中、小児科医3名、産科医2名を維持しながら地域医療に貢献できた。小児医療については、休日の小児医療の確保、嶺南地域の小児療育医療に取り組み、地域の期待に応えることができた。</p> <p>産科医療では、安心して医療が受けられるよう継続的に安定した医療体制を維持していく。</p>	○	○
	平成20年度	平成21年度	平成22年度																																															
小児医療	外来延患者数	13,694人	16,581人	16,128人																																														
	入院延患者数	1,380人	1,408人	1,237人																																														
	外来・入院収益	114,540千円	134,825千円	130,557千円																																														
産科医療	外来延患者数	7,763人	7,299人	8,053人																																														
	入院延患者数	3,183人	2,869人	3,280人																																														
	外来・入院収益	137,659千円	126,089千円	152,302千円																																														
	正常分娩	173件	162件	121件																																														
	異常分娩	9件	14件	56件																																														
	帝王切開	31件	44件	46件																																														
計	213件	220件	223件																																															

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																															
⑥ 研修機能の充実	<p>①研修環境整備として医師、看護師向け各種医療用シミュレーターを購入した。</p> <p>②TV会議システムを導入し、福井大学病院、福井県立病院など福井県内の7病院を回線で繋ぎ、双方向通信により他病院との会議・勉強会の開催や講演会などの受講が、当院に居ながら可能になった。</p> <p>③研修医については、22年度も引き続きフルマッチであり、研修修了者全員が後期研修に残っている。</p> <p>④看護師2名が専任教員養成講習会に受講し、教員資格を取得した。</p> <table border="1" data-bbox="483 485 1211 911"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">学会出席</td> <td>医師</td> <td>194</td> <td>160</td> <td>156</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>180</td> <td>158</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>医療技術員</td> <td>81</td> <td>57</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>事務、他</td> <td>238</td> <td>231</td> <td>124</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>693</td> <td>606</td> <td>499</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">臨床研修医</td> <td>病院単独</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>たすきかけ医科</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>” 歯科</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>救急救命士研修</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>			平成20年度	平成21年度	平成22年度	学会出席	医師	194	160	156	看護師	180	158	162	医療技術員	81	57	57	事務、他	238	231	124	計	693	606	499	臨床研修医	病院単独	2	4	5	たすきかけ医科	1	2	2	” 歯科	1	0	0	計	4	6	7	救急救命士研修	6	5	14	<p>①新人はもとより職場復帰者の研修においても、より安全に技術の向上が図れるようになった。</p> <p>②地域性の問題を解消し医療知識の向上が図れるようになった。現在は毎週金曜日に福井大学の研修医・医療従事者向けコアレクチャーなどを受講している。</p> <p>③研修医の指導充実を図った。</p> <p>④併設する看護学院の教員確保を図った。</p>	○	○
		平成20年度	平成21年度	平成22年度																																															
学会出席	医師	194	160	156																																															
	看護師	180	158	162																																															
	医療技術員	81	57	57																																															
	事務、他	238	231	124																																															
	計	693	606	499																																															
臨床研修医	病院単独	2	4	5																																															
	たすきかけ医科	1	2	2																																															
	” 歯科	1	0	0																																															
	計	4	6	7																																															
救急救命士研修	6	5	14																																																
⑦ 看護師の養成・確保	<p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="483 986 1211 1252"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">看護師</td> <td>新採用</td> <td>19</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>退職</td> <td>14</td> <td>21</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">看護学生</td> <td>入学生</td> <td>33</td> <td>25</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>卒業生</td> <td>21</td> <td>17</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>小浜病院就職者</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>			平成20年度	平成21年度	平成22年度	看護師	新採用	19	21	21	退職	14	21	13	増減	5	0	8	看護学生	入学生	33	25	33	卒業生	21	17	22	小浜病院就職者	9	11	14	<p>①看護師の確保については、7：1看護体制を維持するための人数を確保した。引き続き、若狭高看の卒業生を確保するとともに、他の看護学校の新卒者や潜在看護師の確保を図る。</p> <p>②看護師の養成については、6年連続で国家試験合格率が100%の実績を残せた。今後も、学生の獲得を図る。</p>	○	○																
		平成20年度	平成21年度	平成22年度																																															
看護師	新採用	19	21	21																																															
	退職	14	21	13																																															
	増減	5	0	8																																															
看護学生	入学生	33	25	33																																															
	卒業生	21	17	22																																															
	小浜病院就職者	9	11	14																																															

役割と計画	実 績				進捗の判断	自己評価	委員会評価
⑧ 地域医療機関との連携の推進		平成20年度	平成21年度	平成22年度	<p>福井県地域連携パス（脳卒中）に参加するなど、紹介率・逆紹介率を上げる努力の結果、紹介率で1.8%、逆紹介率で5.3%増加した。</p> <p>地域の医療機関との連携について連絡・協議を行う体制作りに取り組み、紹介率、逆紹介率の向上、病床の共同利用等、地域の基幹病院としての機能の向上に取り組んでいきたい。</p>	△	△
	紹介患者数	3,347人	3,309人	3,327人			
	逆紹介患者数	2,028人	1,918人	2,483人			
	紹介率	24.9%	20.6%	22.4%			
	逆紹介率	16.8%	15.4%	20.7%			

経費削減・抑制対策	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																	
<p>① 給与費の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務委託・機械化することにより、給与費の抑制を図る。 医師・看護師を除く職種については、原則として増員しない。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">職員数</td> <td>医 師</td> <td>39 (4) 人</td> <td>39 (6) 人</td> <td>43 (5) 人</td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>217 (61) 人</td> <td>224 (68) 人</td> <td>229 (78) 人</td> </tr> <tr> <td>医 療 技 術 員</td> <td>65 (4) 人</td> <td>67 (5) 人</td> <td>69 (6) 人</td> </tr> <tr> <td>事 務 ・ 他</td> <td>99 (26) 人</td> <td>101 (24) 人</td> <td>97 (29) 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>420 (95) 人</td> <td>431 (103) 人</td> <td>438 (118) 人</td> </tr> <tr> <td>給 与 費</td> <td>3,065,560千円</td> <td>3,152,564千円</td> <td>3,252,216千円</td> </tr> <tr> <td>対医療収益比 (%)</td> <td>59.0%</td> <td>58.3%</td> <td>54.0%</td> </tr> </tbody> </table>		平成20年度	平成21年度	平成22年度	職員数	医 師	39 (4) 人	39 (6) 人	43 (5) 人	看 護 師	217 (61) 人	224 (68) 人	229 (78) 人	医 療 技 術 員	65 (4) 人	67 (5) 人	69 (6) 人	事 務 ・ 他	99 (26) 人	101 (24) 人	97 (29) 人	計	420 (95) 人	431 (103) 人	438 (118) 人	給 与 費	3,065,560千円	3,152,564千円	3,252,216千円	対医療収益比 (%)	59.0%	58.3%	54.0%	<p>①職員数は主として医師、看護師を増員し、入院患者の確保を図った。</p> <p>②給与費は増加となったものの、対医療収益比で△4.3%となった。</p> <p>③業務委託の拡大は、職員の退職の状況等を考慮しながら引き続き検討する。</p>	○	○
	平成20年度	平成21年度	平成22年度																																		
職員数	医 師	39 (4) 人	39 (6) 人	43 (5) 人																																	
	看 護 師	217 (61) 人	224 (68) 人	229 (78) 人																																	
	医 療 技 術 員	65 (4) 人	67 (5) 人	69 (6) 人																																	
	事 務 ・ 他	99 (26) 人	101 (24) 人	97 (29) 人																																	
	計	420 (95) 人	431 (103) 人	438 (118) 人																																	
給 与 費	3,065,560千円	3,152,564千円	3,252,216千円																																		
対医療収益比 (%)	59.0%	58.3%	54.0%																																		
<p>② 経費の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療材料の購入は「診療材料検討委員会」で充分審議し、安価な材料に変更可能なものは変更する。また、物品の一括管理（SPD）の実施により診療材料等を定数管理しているが使用状況の確認を一層強化し、実績の2%削減を目指す。薬品費の削減を図る。 高度医療施設整備事業（第3期工事）の工事費および医療機器購入については、出来るだけ事業費の削減を図る。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬 品 費</td> <td>631,964千円</td> <td>639,210千円</td> <td>643,067千円</td> </tr> <tr> <td>対医療収益比 (%)</td> <td>12.2%</td> <td>11.8%</td> <td>10.7%</td> </tr> <tr> <td>診 療 材 料 費</td> <td>503,488千円</td> <td>526,874千円</td> <td>539,696千円</td> </tr> <tr> <td>対医療収益比 (%)</td> <td>9.7%</td> <td>9.8%</td> <td>9.0%</td> </tr> <tr> <td>経 費</td> <td>629,498千円</td> <td>693,477千円</td> <td>740,554千円</td> </tr> <tr> <td>対医療収益比 (%)</td> <td>12.1%</td> <td>12.8%</td> <td>12.3%</td> </tr> <tr> <td>う ち 委 託 費</td> <td>297,897千円</td> <td>373,997千円</td> <td>388,408千円</td> </tr> </tbody> </table>		平成20年度	平成21年度	平成22年度	薬 品 費	631,964千円	639,210千円	643,067千円	対医療収益比 (%)	12.2%	11.8%	10.7%	診 療 材 料 費	503,488千円	526,874千円	539,696千円	対医療収益比 (%)	9.7%	9.8%	9.0%	経 費	629,498千円	693,477千円	740,554千円	対医療収益比 (%)	12.1%	12.8%	12.3%	う ち 委 託 費	297,897千円	373,997千円	388,408千円	<p>①薬品費削減を図るため後発品の使用を拡大したことにより、対医療収益比で1.1%改善できた。</p> <p>②診療材料費削減を図るため、同等品で安価なものへ切替を行ない、対医療収益比で0.8%改善できた。</p> <p>③経費は増加したが、対医療収益比で0.5%が改善できた。</p> <p>高度医療施設整備事業（第3期工事）の工事費では、建築、電気設備、機械設備の分離発注による入札を実施した結果、いずれも設計額を大きく下回る請負率で落札した。医療機器についても、予算額内で最新の機器の検討を行っている。</p>	○	△	
	平成20年度	平成21年度	平成22年度																																		
薬 品 費	631,964千円	639,210千円	643,067千円																																		
対医療収益比 (%)	12.2%	11.8%	10.7%																																		
診 療 材 料 費	503,488千円	526,874千円	539,696千円																																		
対医療収益比 (%)	9.7%	9.8%	9.0%																																		
経 費	629,498千円	693,477千円	740,554千円																																		
対医療収益比 (%)	12.1%	12.8%	12.3%																																		
う ち 委 託 費	297,897千円	373,997千円	388,408千円																																		

収入増加・確保対策	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																
① 急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率(全体)</td> <td>70.9%</td> <td>71.8%</td> <td>77.6%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>18日</td> <td>17日</td> <td>16日</td> </tr> </tbody> </table>		平成20年度	平成21年度	平成22年度	病床利用率(全体)	70.9%	71.8%	77.6%	平均在院日数	18日	17日	16日	<p>クリニカルパス等の活用により、平均在院日数は短縮した。DPCの導入と相まって患者1人1日当たり収益は増加した。 病床利用率も、平成21年度71.8%から平成22年度77.6%と向上している。 今後の計画として、DPCの効果、病床利用率の向上により収入の増加を図りたい。</p>	○	○				
	平成20年度	平成21年度	平成22年度																	
病床利用率(全体)	70.9%	71.8%	77.6%																	
平均在院日数	18日	17日	16日																	
② 亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る。(年間 21,900千円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>亜急性期病床</td> <td>20床</td> <td>20床</td> <td>20床</td> </tr> <tr> <td>1日平均患者数</td> <td>18.4人</td> <td>18.1人</td> <td>18.1人</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>92.0%</td> <td>90.5%</td> <td>90.5%</td> </tr> </tbody> </table>		平成20年度	平成21年度	平成22年度	亜急性期病床	20床	20床	20床	1日平均患者数	18.4人	18.1人	18.1人	病床利用率	92.0%	90.5%	90.5%	<p>8床の増床はできなかったが、平成22年7月に、一般の休床50床のうち25床を再稼働し、入院収益の増収を図っている。 亜急性期病床の増床については、一般、療養等の病床の運営状況と、患者の病態等の状況を踏まえ、今後も検討していく。</p>	○	○
	平成20年度	平成21年度	平成22年度																	
亜急性期病床	20床	20床	20床																	
1日平均患者数	18.4人	18.1人	18.1人																	
病床利用率	92.0%	90.5%	90.5%																	
③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。	<p>フットケア外来、子宮頸がんワクチン、小児肺炎球菌ワクチン、破傷風ワクチン、B型肝炎母子感染予防ワクチンを新たに実施した。</p>	<p>平成22年度において、フットケア外来、ワクチン接種料で、3,737,000円の増収となった。</p>	○	○																
④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。	<p>(平成22年度研修会参加状況) 診療情報管理士基礎課程 2名参加 伏見班DPC夏期セミナー 2名参加 診療情報管理士DPCコース 2名参加 第17回診療情報管理実務研修会4名参加 第34回北陸診療情報管理研究会4名参加 第35回福井県診療情報管理懇話会4名参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師事務作業補助加算100：1から75：1に変更 ・ 慢性期病棟等退院調整加算1 ・ 急性期慢性期病棟等退院調整加算1 ・ HPV核酸同定検査 ・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)変更申請 ・ 透析液水質確保加算 ・ 救急医療管理加算 ・ 乳幼児救急医療緊急加算 ・ 超急性期脳卒中加算 ・ 救命救急入院料1 ・ 地域連携診療計画管理料 ・ 医療機器安全管理料2 ・ 医療機器安全管理料(歯科) ・ 検体検査管理加算(Ⅳ) ・ 外来化学療法加算2 ・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) ・ 放射線治療専任加算 ・ 外来放射線治療加算 	○	○																

収入増加・確保対策	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																				
⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価（DPC）準備病院に平成20年度申請した。	<p>(平成21年度) 準備病院として平成20年7月から12月、平成21年7月から12月の12ヶ月分の調査資料を作成し厚労省へ提出するとともに、資料分析を行い平成22年度からの導入に対して検討を行った。</p> <p>(平成22年度) 平成22年7月からDPC請求開始。 診療情報管理士2名が、DPCコースを修了 他に2名が診療情報管理士の専門課程を受講中。</p>	<p>(平成21年度) 各疾病ごとの診療内容を分析し、平成22年7月からのDPC請求開始に対応することができた。</p> <p>(平成22年度) 平成22年7月から平成23年3月の9ヶ月で、DPC請求額は出来高換算額と比較し、月額平均840万円(2.5%)の増収となった。</p>	○	○																				
⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 20%;">平成20年度</th> <th style="width: 20%;">平成21年度</th> <th style="width: 20%;">平成22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介延患者数</td> <td style="text-align: center;">3,347人</td> <td style="text-align: center;">3,309人</td> <td style="text-align: center;">3,327人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介延患者数</td> <td style="text-align: center;">2,028人</td> <td style="text-align: center;">1,918人</td> <td style="text-align: center;">2,483人</td> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td style="text-align: center;">24.9%</td> <td style="text-align: center;">20.6%</td> <td style="text-align: center;">22.4%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td style="text-align: center;">16.8%</td> <td style="text-align: center;">15.4%</td> <td style="text-align: center;">20.7%</td> </tr> </tbody> </table>		平成20年度	平成21年度	平成22年度	紹介延患者数	3,347人	3,309人	3,327人	逆紹介延患者数	2,028人	1,918人	2,483人	紹介率	24.9%	20.6%	22.4%	逆紹介率	16.8%	15.4%	20.7%	平成22年度は前年度と比較して、紹介率で1.8%、逆紹介率で5.3%増加した。地域医療支援病院の承認を得るためには、地域の医療機関との連携が不可欠であるため、紹介・逆紹介、病床の共同利用について検討を行っていく。	△	△
	平成20年度	平成21年度	平成22年度																					
紹介延患者数	3,347人	3,309人	3,327人																					
逆紹介延患者数	2,028人	1,918人	2,483人																					
紹介率	24.9%	20.6%	22.4%																					
逆紹介率	16.8%	15.4%	20.7%																					

公立病院改革プランの概要

団体名	公立小浜病院組合											
プランの名称	杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン											
策定日	平成21年3月26日											
対象期間	平成21年度～平成27年度											
病院の現状	病院名	杉田玄白記念公立小浜病院										
	所在地	福井県小浜市大手町2番2号										
	病床数	456床(一般290床 結核8床 感染症2床 療養50床 精神100床 ドック6床)										
	診療科目	内科・呼吸器科・循環器科・外科・整形外科・脳外・産科・児科・耳科・眼科・泌尿科・皮膚科・放科 麻科・心臓外科・形外・精科・神科・リハ科・歯科										
公立病院として今後果たすべき役割(概要)	嶺南医療圏・若狭地域の基幹病院として、政策的医療等の提供や病診連携の中心的役割を果たし、地域医療水準の維持、向上に努める。 ① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供 ② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供 ③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供 ④ へき地医療拠点病院としての機能の提供 ⑤ 小児医療・産科医療の確保 ⑥ 研修機能の充実 ⑦ 看護師の養成・確保 ⑧ 地域医療機関との連携の推進											
一般会計における経費負担の考え方(繰出基準の概要)	・1床あたりの普通交付税額相当分 ・救命救急センター運営に係る特別交付税額相当分 ・学生1人あたりの普通交付税額相当分 ・企業債元利償還額の普通交付税額相当分											
経営効率化に係る計画	財務に係る数値目標(主なもの)	19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	備考	
	変更後	経常収支比率	91.0%	85.7%	95.1%	88.5%	89.7%	93.7%	96.3%	99.4%	100.7%	
		(減価償却費を除く)	96.2%	98.3%	106.8%	98.9%	100.2%	104.1%	106.5%	108.1%	109.2%	
		医業収益比率	88.3%	81.7%	84.4%	86.3%	89.1%	91.9%	92.8%	94.7%	95.4%	
		(減価償却費を除く)	93.9%	95.0%	96.2%	97.2%	100.7%	103.2%	103.4%	103.6%	104.0%	
		職員給与費比率	60.5%	59.3%	57.5%	56.4%	54.4%	53.6%	53.6%	53.6%	53.5%	
		材料費比率	24.9%	25.3%	24.0%	23.9%	23.6%	23.5%	23.3%	23.1%	22.9%	
		経費	11.9%	12.6%	12.2%	12.4%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	
	変更前	病床利用率	73.0%	71.1%	77.8%	76.7%	81.6%	82.2%	82.2%	82.2%	82.2%	
		経常収支比率				89.3%	89.6%	93.6%	96.3%	99.3%	100.6%	
(減価償却費を除く)					99.7%	100.1%	104.0%	106.4%	108.1%	109.1%		
医業収益比率					87.1%	89.0%	91.9%	92.8%	94.7%	95.3%		
変更前	(減価償却費を除く)				98.2%	100.6%	103.1%	103.3%	103.6%	103.9%		
	職員給与費比率				55.8%	54.5%	53.6%	53.6%	53.6%	53.5%		
	材料費比率				23.7%	23.7%	23.5%	23.3%	23.1%	22.9%		
	経費				12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%		
	病床利用率				82.2%	85.6%	86.7%	86.7%	86.7%	86.7%		
上記目標数値設定の考え方	・支出においては、現金支出を伴わない高額の「減価償却費」等が含まれており、平成26年度までの黒字化は困難である。(経常黒字化の目標年度：27年度) ・平成21年8月に看護の質の向上を図るため、7:1施設基準を取得した。そのため、入院患者数、入院単価を見直し、平成22年度より数値目標を変更した。											

公立病院としての医療機能に係る数値目標(主なもの)	19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	備考	
	入院患者数(人)	114,012	116,800	127,750	125,925	134,322	135,050	135,050	135,050	135,420	
	手術件数(件)	1,599	1,732	1,818	1,909	2,004	2,024	2,024	2,024	2,030	
	健診件数(件)	796	1,090	1,300	1,365	1,430	1,445	1,445	1,445	1,449	
	研修医受入数(人)	1	4	6	8	8	8	8	8	8	
数値目標達成に向けての具体的な取組及び実施時期	民間の経営手法の導入	・病院給食業務の一部を外部委託している。 ・施設内の清掃業務・警備業務を外部委託している。 ・外来投薬の院外処方化を平成17年度から実施している。 ・医事業務の一部を機械化し、平成21年4月から運用を開始する。 ・電話交換手業務を外部委託の方向で検討中。 ・施設・設備の管理業務を一括して外部委託の方向で検討中。									
	事業規模・形態の見直し	病床運営 ・病床数は現行の450床を維持する。 ・救急・急性期機能に特化し、亜急性期病床を有効利用する。 ・維持期の患者については他施設へ紹介するなど、一層の連携を進める。									
	経費削減・抑制対策	① 給与費の抑制 ・業務委託・機械化することにより、給与費の抑制を図る。 ・医師・看護師を除く職種については、原則として増員しない。 ② 経費の削減 ・診療材料の購入は「診療材料検討委員会」で充分審議し、安価な材料に変更可能なものは変更する。 ・また、物品の一括管理(SPD)の実施により診療材料等を定数管理しているが使用状況の確認を一層強化し、実績の2%削減を目指す。 ・高度医療施設整備事業(第3期工事)の工事費および医療機器購入については、出来るだけ事業費の削減を図る。									
	収入増加・確保対策	① 急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。 ② 亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る。(年間 21,900千円) ③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。 ④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。 ⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価(DPC)準備病院に平成20年度申請した。 ⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。									
その他の特記事項	各年度の収支計画 別紙1のとおり 病床利用率の状況 17年度 86% 18年度 83% 19年度 73% ① 病床数の見直し ・病床数は現行の450床とし、平成24年度には利用率82%をめざす。 ・健診ベット6床についても現状を維持する。 ② 施設の増改築計画 ・平成14年4月に設置された「公立小浜病院高度医療施設整備計画策定委員会」の答申を受け、平成15年度より、施設整備事業を進めてきたが、平成21年度から3ヶ年計画で最終事業となる第3期工事に着手の予定。 第3期工事の骨子は診療棟の増築・解体、患者用駐車場整備であるが、あわせて福井県エネルギー研究開発拠点化計画に基づく病院医療機能の拡充にも取り組む。 (既存施設のうち、旧病棟は昭和55年以前に設計された建物であり、耐震強度基準を満たしていないため解体撤去し、狭隘化している患者用駐車場を拡張したい。)										

再編・ネットワーク化に係る計画	二次医療圏内の公立病院等 配置の現況	<p>当院が所在する福井県嶺南医療圏には、次の公立病院および公的病院が開設されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立敦賀病院(敦賀市・375床)・国立病院機構福井病院(敦賀市・320床) ・レイクヒルズ美方病院(若狭町・美浜町・100床) ・国保上中病院(若狭町・75床)・社会保険高浜病院(高浜町・115床) <p>(参考資料:嶺南医療圏における病院の概要・福井県医療体制図)</p>	
	都道府県医療計画等における今後の方向性		
再編・ネットワーク化計画の概要及び当該病院における対応計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、①検討・協議の方向性、②検討・協議体制、③検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること。	<時期>	<p><内容></p> <p>医療圏は2つの地域に区別されるが、当院が属する若狭地域にあっては、当院が唯一の基幹病院である。 (参考資料:嶺南医療圏における病院の概要・福井県医療体制図)</p> <p>医療機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既にレイクヒルズ美方病院とは医師の支援・職員の人事交流・患者紹介・逆紹介を行なっている。また上中病院を含む地域の医療機関と連携を図り、患者紹介・逆紹介を行なうとともに、CT・MRI・PET-CT検査を受託しており今後も地域の医療機関との連携を強化して行きたい。 	
	経営形態の現況 (該当箇所) <input checked="" type="checkbox"/> を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 公営企業法財務適用 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度	<input type="checkbox"/> 公営企業法全部適用 <input checked="" type="checkbox"/> 一部事務組合・広域連合
経営形態の見直し(検討)の方向性 (該当箇所) <input checked="" type="checkbox"/> を記入、検討中の場合は複数可)	<input checked="" type="checkbox"/> 公営企業法全部適用 <input type="checkbox"/> 民間譲渡 <input type="checkbox"/> 診療所化	<input checked="" type="checkbox"/> 地方独立行政法人 <input type="checkbox"/> 現状維持を含め様々な形態を検討	<input type="checkbox"/> 指定管理者制度
	経営形態見直し計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、①検討・協議の方向性、②検討・協議体制、③検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること。	<時期>	<p><内容></p> <p>当院の使命と役割、さらに地域医療の確保・充実などの観点に立ち、平成21年度より、病院組合事業間で設置されている「病院組合事業運営会議」において、調査・研究したいと考えています。 平成22年度内には、病院としての方向性をとりまとめ、関係自治体と協議する予定です。</p>
点検・評価・公表等	点検・評価・公表等の体制 (委員会等を設置する場合その概要)	外部有識者・住民代表・行政代表を含む「病院評価委員会」を平成21年度に設置予定	
	点検・評価の時期(毎年〇月頃等)	毎年度9月末を目途とする。	
その他特記事項			

小浜病院の役割と今後の目標に関する資料

1) 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供

(単位:人)

		20年度	21年度実績	22年度実績
1日平均 患者数	外 来	800.5	792.4	775.5
	入 院	319.2	323.2	349.4
1日平均 救急患者	外 来	24.2	31.2	27.4
	入 院	4.2	3.2	6.8
1日平均 救急患者	時間外	23.2	29.2	26.5
	救急車	4.8	4.6	5.2

救命救急センター 市町別取扱い患者数

(単位:人)

		平成20年度	平成21年度	平成22年度
小浜市		7,136	8,434	8,173
若狭町	旧上中町	906	1,340	1,238
	旧三方町	258	284	358
おおい町	旧名田庄村	428	473	450
	旧大飯町	425	502	596
美浜町		53	68	41
高浜町		357	470	545
その他(県内外)		816	969	1,099
合計		10,379	12,540	12,500

若狭地域における救急車搬送状況について

平成20年

(単位:人)

搬送先		死亡	重症	中等症	軽症	合計
若狭消防組合管内		76	405	507	1,009	1,516
うち小浜病院		65	354	382	889	1,271
若狭消防組合管外		0	79	51	32	83
う ち	舞鶴共済病院	0	37	28	15	43
	舞鶴医療センター	0	17	16	16	32
	舞鶴赤十字病院	0	0	0	1	1
	舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
合 計		76	484	558	1,041	1,599

平成21年

(単位:人)

搬送先		死亡	重症	中等症	軽症	合計
若狭消防組合管内		45	373	516	1,028	1,544
うち小浜病院		33	305	398	922	1,320
若狭消防組合管外		0	61	37	41	78
う ち	舞鶴共済病院	0	35	13	17	30
	舞鶴医療センター	0	12	11	21	32
	舞鶴赤十字病院	0	0	0	0	0
	舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
合 計		45	434	553	1,069	1,622

平成22年

(単位:人)

搬送先		死亡	重症	中等症	軽症	合計
若狭消防組合管内		29	463	632	979	2,103
うち小浜病院		18	376	536	876	1,806
若狭消防組合管外		0	69	34	15	118
う ち	舞鶴共済病院	0	43	18	11	72
	舞鶴医療センター	0	9	11	4	24
	舞鶴赤十字病院	0	0	1	0	1
	舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
合 計		29	532	666	994	2,221

2) 生活習慣病に適切に対応する医療の提供

(単位:人)

	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	受診者	要医療指摘者数	受診者	要医療指摘者数	受診者	要医療指摘者数
人間ドック	674	434	679	501	704	525
PET健診	47	1	28	2	30	11
脳ドック	6	0	67	26	85	28
人間ドック+脳ドック	-	-	39	26	39	19
人間ドック+PET健診	-	-	9	9	4	2
特定健診	125	15	64	7	72	14
婦人科癌検診	29	2	22	-	21	5
受診者数合計	881	452	908	571	955	604
健診収入	43,943,973円		47,988,008円		49,098,661円	

3) 地域災害医療センターとしての医療機能の提供

「評価シート記載の通り」

4) へき地医療拠点病院としての機能の提供

(単位:人)

	20年度	21年度	22年度
巡回診療日数	168	168	168
1回平均患者数	9.8	8.1	7.5

年度別へき地診療実人数調

(単位:人)

年度	壺海	上根米	宮川	音海	日引	上瀬	奥杉山	河内	西浦	合計
	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	
18	363	252	124	159	23	60	41	42	595	1,659
19	381	233	122	146	30	56	33	40	604	1,645
20	407	211	140	120	30	50	36	46	598	1,638
21	393	222	114	102	24	45	26	38	395	1,359
22	357	200	94	91	24	41	35	45	378	1,265
合計	1,901	1,118	594	618	131	252	171	211	2,570	7,566

5) 小児医療・産科医療の確保

(単位:人)

			20年度	21年度	22年度
1日平均患者数	小児	外来	56.6	68.5	66.4
		入院	3.8	3.9	3.4
	産科	外来	32.1	30.2	33.1
		入院	8.7	7.9	9.0
分娩件数	正 常		173	162	121
	異 常		9	14	56
	帝王切開		31	44	46
	計		213	220	223
分娩収入(自費非課税分)			78,045,520円	86,105,720円	85,336,020円

6) 研修機能の充実

学会・研修会等への出席

(単位:人)

	20年度	21年度	22年度
医 師	194	160	156
看 護 師	180	158	162
医療技術員	81	57	57
事 務 職 他	238	231	124

臨床研修医の状況

(単位:人)

	20年度	21年度	22年度
病 院 単 独	2	4	5
大学との たすき掛	医科	2	2
	歯科	1	0
合 計	4	6	7

救急救命士の研修状況

(単位:人)

	20年度	21年度	22年度
救急救命士の研修	6	5	14

7) 看護師の養成・確保

(単位:人)

		20年度	21年度	22年度
養成所入学者		33	25	33
卒業 者	小浜病院	9	11	14
	その他	12	6	8
	計	21	17	22
看護 師	新採用者	19	21	21
	退職者	14	21	13
	増減	5	0	8

8) 地域医療機関との連携の推進

平成22年度 医療機関別
紹介患者件数

名田庄診療所	291
田中整形外科医院	228
舞鶴共済病院	202
上中病院	197
千葉医院	150
なごみ診療所	140
山手医院	131
小津外科医院	127
いちせクリニック	124
高浜病院	123
西津診療所	98
吉井医院	77
村上眼科医院	76
田中病院	74
にしお内科クリニック	65
嶺南病院	63
福井大学医学部付属病院	58
レイクヒルズ美方病院	55
歯科大下医院	55
京都大学医学部付属病院	44
ふくもと小児科医院	42
市立敦賀病院	38
敦賀温泉病院	33
木村医院	32
中名田診療所	32
大下第3歯科医院	32
藤村クリニック	30
浅妻内科	25
舞鶴医療センター	24
関根医院	23
山本こども診療所	23
中山クリニック	21
福井病院	20
小計	2,753
その他(19件未満)	574
総計	3,327

逆紹介患者件数

舞鶴共済病院	198
田中整形外科医院	142
小津外科医院	119
上中病院	113
山手医院	94
京都大学医学部付属病	94
千葉医院	89
田中病院	88
名田庄診療所	86
福井大学医学部付属病	83
吉井医院	64
なごみ診療所	61
西津診療所	50
にしお内科クリニック	50
レイクヒルズ美方病院	42
高浜病院	41
中名田診療所	40
村上眼科医院	34
福井済生会病院	29
嶺南病院	25
いちせクリニック	23
木村医院	22
中山クリニック	16
大下第3歯科医院	16
福井循環器病院	14
福井県立病院	13
福井病院	12
敦賀温泉病院	10
岐阜大学医学部付属病	10
京都府立医科大学付属病院	10
関根医院	10
リリ・フィジオ	10
京都通信病院	9
滋賀県小児保健センター	9
市立敦賀病院	9
堀口医院	9
福井赤十字病院	9
未定	348
小計	2,101
その他(19件未満)	382
総計	2,483

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 委員名簿

区 分	氏 名	所属団体・役職名
委員長	白髪 昌世	広島国際大学医療経営学部医療経営学科教授
委 員	木村 浩三	小浜医師会 会長
委 員	中塚 安治	元小浜市副市長
委 員	江見 敏	小浜市民生部長
委 員	宮脇 美恵子	小浜市連合婦人会 会長

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 開催日

平成23年7月29日（金） 午後6時より 杉田玄白記念公立小浜病院 9階中会議室